

株主の皆様へ

フジ・メディア・ホールディングス レポート

第72期 報告書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

INTERVIEW

太田英昭 新社長が語る
フジ・メディア・ホールディングス
新体制に移行、今後の見通し

TOPICS

亀山千広 フジテレビジョン新社長ごあいさつ
MOVE! もっとフジテレビ

特集

- 20年目もさらに進化「めざましテレビ」
- アニメ「サザエさん」放送開始45年目へ!





代表取締役会長
(Chairman & CEO)

日枝 久

代表取締役社長
(President & COO)

太田英昭

Contents

 ごあいさつ 1	 特集 13
 太田英昭 新社長 インタビュー 3	 CSR通信 Vol.13 15
 連結業績 ハイライト 5	 会社概況 16
 グループ アウトライン 7	 株式情報 17
 トピックス 9	

メディア・コンテンツ産業のリーディングカンパニーとして

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

(株)フジ・メディア・ホールディングスは認定放送持株会社に移行して6期目を迎えました。放送の公共的使命と社会的責任を常に認識し、放送番組を中心に視聴者・利用者の皆様に信頼され広く支持される上質なソフト・コンテンツの制作・提供を目指してまいりました。

さて、当期の業績ですが、放送事業、生活情報事業、映像音楽事業が減収となる中、制作事業、広告事業が増収だったことに加え、都市開発事業が新たに加わったことによって、3期連続で増収、営業利益も増益となりました。

さらに本年から、(株)フジ・メディア・ホールディングスと(株)フジテレビジョンの経営責任を明確に分離した新体制を整備し、さらなる発展を目指します。(株)フジ・メディア・ホールディングスは資本政策を基本にグループ企業の経営戦略・強化拡大・投資買収・新規事業などへの取り組みを積極的に推進してまいります。一方、(株)フジテレビジョンは放送コンテンツ事業に専念し、当面の重点課題である番組視聴率とコンテンツ価値の向上を図り、デジタル分野・ネットビジネスとの連携をさらに促進してまいります。

今後とも、グループ内での連動や多様な媒体の相互活用を推進し、ソフト・コンテンツの価値の向上と、そこから生まれる収益の最大化を目指し、強靱な収益体質の構築に努めてまいります。

何とぞ、当社グループへの倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月



太田英昭 新社長インタビュー

チャレンジ、そして成長。グループ各社との連携を強化し、次世代に向けた新たな事業展開と一層の業績向上を目指します。

代表取締役社長
(President & COO)

太田英昭

当期の業績の概要をご説明ください。

放送事業におきましては、(株)フジテレビジョンがスポットセールスの減少によって放送収入が前年度を下回り、映画事業では邦画興行収入上位4位を独占するなど歴代最高の売上げとなりましたが、減収・営業減益となりました。制作事業は積極的な番組制作受注の推進によって、大幅な増収増益を果たしました。一方、生活情報事業は天候不順の影響などを受け減収

減益でしたが、映像音楽事業では、ほぼ前年に並ぶ利益を確保することができました。その中で、当期から新しく連結に加わった都市開発事業が予想を大きく上回る54億円の営業利益を上げました。その結果、連結売上高は前年同期比6.5%増収の6,320億29百万円、営業利益は前年同期比13.3%増益の376億8百万円となりました。

(株)フジ・メディア・ホールディングスの今後について、新社長のビジョンを教えてください。

今回、(株)フジ・メディア・ホールディングスと(株)フジテレビジョンの経営責任を明確に分離した新体制となり、(株)フジ・メディア・ホールディングスの社長を拝命いたしました。(株)フジテレビジョンの亀山新社長と強力な連携体制を取りながら、グループの強靱な経営基盤を構築してまいります。

主力の放送事業では(株)フジテレビジョンの視聴率回復が急務ですが、4月改編から回復基調となってまいりました。若年層をメインターゲットにしたフジテレビらしい番組編成によって、魅力的なオリジナル・コンテンツの創出を図るとともに、番組視聴率や媒体価値を向上させ、高い水準の放送収入の確保を目指してまいります。成長分野であるデジタルビジネス関連は一層の強化を図ります。番組配信事業はスマートフォンやタブレットに向けた新規顧客開拓を加速させ、番組連動ゲームの開発にも注力し、デジタル収入を次世代の収益の大きな柱へと育てていきたいと考えております。そして、(株)フジテレビジョンを中心に、(株)ビーエスフジ、CS有料チャンネル、その他のコンテンツ事業との連携をより強固にし、強靱なメディアグループとしての発展を目指してまいります。

生活情報事業では、(株)ディノスと(株)セシールの合併によって、商品や企画の共同開発や業務の効率化に努め、収益の向上とさらなる成長を目指します。制作事業におきましても、(株)八峯

テレビと(株)フジライティング・アンド・テクノロジーの合併によって技術力の向上と効率化に努めます。その他の各事業も一貫して進めてきた体質強化が着実に効果を上げてきたと考えております。

さらに、新規事業の開拓によるビジネス機会の拡大については、デジタル事業分野において、ベンチャーキャピタル事業会社(株)フジ・スタートアップ・ベンチャーズを設立いたしました。放送事業と密接に関連するデジタル・コンテンツやゲーム事業の拡大へと繋げてまいります。また、海外市場に向けた新規事業として、エフ・アイ・メディア企画(株)を設立いたしました。海外の放送局との業務提携による新規事業開拓に向けて、音楽著作権やテレビ通販分野でのテストマーケティングを進めていくところです。

将来に向けた一大プロジェクトとして取り組んでおります「東京DAIBA・MICE/IR 国際観光戦略特区」事業ですが、台場地区の立地条件を最大限活用し、東京都のアジアヘッドクォーター特区計画の実現に向けて事業化の検討を着実に進めてまいります。

新たな成長分野へのチャレンジを加速することで、株主の皆様のご期待に応えてまいります。

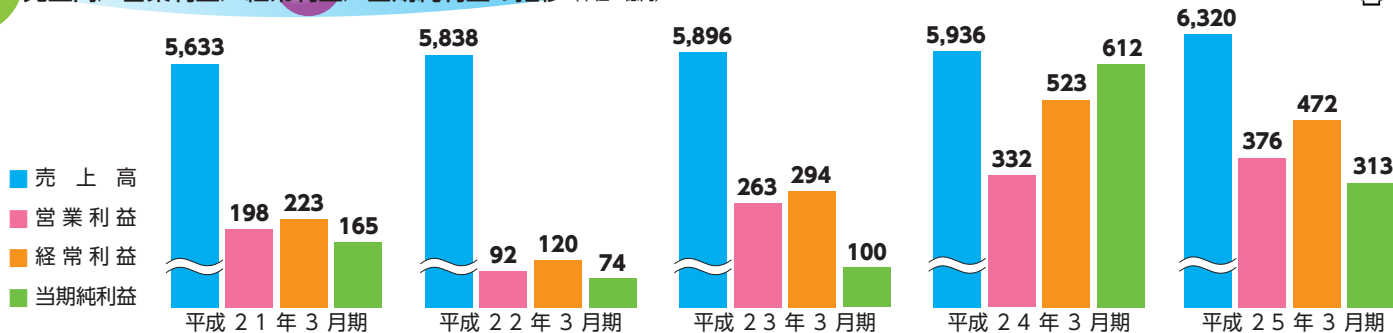
連結業績ハイライト

当社の財務情報はホームページでもご覧いただけます。

[フジ・メディア・ホールディングス](#)

[検索](#)

売上高／営業利益／経常利益／当期純利益の推移 (単位：億円)



売上高について

制作事業、広告事業の増収に加えて都市開発事業の業績が新たに連結対象となったことで増収

- 放送事業では、BS、CS放送が順調に推移し、映画興行も大ヒットで貢献したが、前年度の大型イベントの反動のほか、地上波テレビのスポット広告が市況や視聴率の影響を受け減収
- 制作事業は番組やイベントなどの受注増により増収
- 新たに取り込まれた都市開発事業も増収に寄与

損益について

営業利益は増益、経常利益、当期純利益は減益

- 営業利益は、制作事業の増益に加えて都市開発事業が新たに連結対象となったことで増益
- 経常利益は、前年度のフジテレビ系列局9社の負ののれん発生益の反動で、さらに当期純利益も前年度の(株)サンケイビルの負ののれん発生益などの反動で減益

	平成 21 年 3 月期	平成 22 年 3 月期	平成 23 年 3 月期	平成 24 年 3 月期	平成 25 年 3 月期
業績データ (億円)					
売上高	5,633	5,838	5,896	5,936	6,320
営業利益	198	92	263	332	376
売上高営業利益率 (%)	3.5	1.6	4.5	5.6	6.0
経常利益	223	120	294	523	472
当期純利益	165	74	100	612	313
財務データ (億円)					
総資産	6,835	7,531	7,237	9,535	9,523
流動資産	2,943	3,446	3,451	3,662	3,416
固定資産	3,891	4,085	3,786	5,873	6,106
負債	2,301	2,890	2,621	4,190	3,841
流動負債	1,216	1,558	1,298	2,029	1,608
固定負債	1,085	1,331	1,323	2,160	2,232
純資産	4,533	4,641	4,616	5,345	5,682
キャッシュ・フロー (億円)					
営業活動によるキャッシュ・フロー	847	186	576	392	457
投資活動によるキャッシュ・フロー	△367	△308	△1,037	△158	△136
財務活動によるキャッシュ・フロー	△94	253	△333	△53	△433
現金及び現金同等物の残高	1,165	1,280	481	727	618
1株当たりデータ (円)					
1株当たり当期純利益	7,193.40	3,238.69	4,342.98	26,138.30	13,508.82
1株当たり純資産	194,864.16	199,432.99	198,377.85	226,290.92	243,177.16
1株当たり配当金	3,600.00	1,600.00	1,800.00	3,600.00	4,400.00

グループアウトライン

認定放送持株会社(株)フジ・メディア・ホールディングスのグループは、7グループ24社の中核子会社で構成されています。(株)フジ・メディア・ホールディングスは事業面で緊密な関係を有する関連会社をはじめ、フジサンケイグループ各社と事業・文化活動においてさらに連携を強めてまいります。

当期のセグメント別売上高構成比(%)



※このグラフの各売上高は、セグメント間の調整額(715億2,500万円)を含む数字です。



重要な子会社の業績(単位:百万円)

	フジテレビジョン		ニッポン放送		ポニーキャニオン		dinos		cecile		株式会社 サンケイビル	
	前期	当期	前期	当期	前期	当期	前期	当期	前期	当期	前期	当期
売上高	329,013	323,581	18,837	19,203	47,234	45,380	59,767	61,135	57,613	54,102	33,007	33,003
営業利益	25,039	23,449	22	100	2,694	1,661	1,340	1,097	908	448	5,339	4,736
経常利益	25,666	23,548	152	184	2,843	1,774	1,455	1,232	1,025	494	3,779	3,601
当期純利益	12,451	13,177	△ 466	111	1,610	1,014	1,815	1,319	529	△ 2,328	1,634	250

関連会社

(株)産業経済新聞社、(株)フジランド、(株)スタジオアルタ 他

※1(株)八峯テレビおよび(株)フジライティング・アンド・テクノロジーの2社は、平成25年7月1日に合併いたします。

※2(株)フジ・ダイレクト・マーケティング、(株)ディノスおよび(株)セシールの3社は、平成25年7月1日に合併いたします。

トピックス ここからは、主要各社の活動を振り返ってご紹介いたします。

フジテレビジョン (株)フジテレビジョン

番組 **「MOVE! もっとフジテレビ」**

フジテレビは今年一年さらに番組を活性化させ、強いタイムテーブルを作っていくために積極的に“動いて”いきます!

4月改編のポイントは強力布陣を敷いた連続ドラマ。月9に「ガリレオ」が帰ってきました。初回視聴率22.6%を筆頭に期待通りにロケットスタートし、この夏公開の「映画ガリレオ・真夏の方程式」につなげます。また13年ぶりにドラマ枠となった水曜22時には「家族ゲーム」、そして木曜22時に「ラストシンデレラ」と女性層に支持されるドラマをお届けします。

またバラエティはゴールデンに新番組が続々と登場。金曜20時に「人生の正解TV～これがテッパン」、日曜21時に「テレビシャカイ実験 あすなるラボ」と、共に家族で楽しめる大型新バラエティです。また「アウト×デラックス」が満を持して木曜23時にレギュラー化。さらに勢いを増してティーンやF1層M1層など若い世代の期待に応えます。

フジテレビは、これからもチャレンジャーとして新しいトライアルを行い、前へ前へと突き進んでまいります。

新社長ごあいさつ



フジテレビでは、魅力ある番組、映画、イベントをお届けし、株主の皆様のご期待に応えてまいります。

社員全員が一丸となって汗をかきながら取り組む所存ですので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(株)フジテレビジョン
代表取締役社長 **亀山 千広**



「ガリレオ」



「人生の正解TV～これがテッパン」

年間興行ランキングTOP4を独占! 充実の映画事業局10周年

平成24年度は、日本アカデミー賞最優秀主演男優賞に輝いた「テルマエ・ロマエ」をはじめ、フジテレビ映画4作品が年間興行ランキングのTOP4を独占したほか、「ジャパン・イン・ア・ディ」や「遺体 明日への十日間」といった東日本大震災に正面から向き合った意義深い作品も製作しました。また、配信事業では「テルマエ・ロマエ」が邦画史上最高を更新するなど、前年比130%の売上を記録したほか、スマホなどで成長著しい月額配信サービスへの作品提供も開始するなど、映画事業局10周年の昨年は、多様なラインアップと収益形態のさらなる拡大で充実の1年となりました。



「テルマエ・ロマエ」
©2012 フジテレビジョン/東宝/電通/
エンターブレイン

新企画シルク・エロワーズ「iD」が大ヒット!

本年1月に閉幕した「ツタンカーメン展」は208万6,125人の来場者数(美術展史上第2位)を記録。「a-nation」「Blast!」といった音楽イベントも成功を収めたほか、新企画では、新進気鋭のアクロバット集団「シルク・エロワーズ」による初来日公演「iD」が4都市で7万人動員の大ヒットになるなど、総じて好調な1年でした。また平成25年度には、シルク・ドゥ・ソレイユによる「マイケル・ジャクソン ザ・イモータル」、3年前の初上陸で37万人を動員した「ウォーキング・ウィズ・ダイナソー」など、話題性の高い大型イベントを開催いたします。



「iD」
©Theatre T & Cie

トピックス

ニッポン放送 (株)ニッポン放送

「オールナイトニッポン45時間スペシャル」を放送

1967年10月の放送開始以来、実に400組以上のパーソナリティが登場し、数多くの才能を輩出してきた「オールナイトニッポン」。その45周年の集大成として、2013年2月22日(金)から24日(日)の足掛け3日間にわたって大型特別番組「伝説のパーソナリティが今を語る オールナイトニッポン45時間スペシャル」を放送しました。

番組の総司会は、新旧土曜日の顔である笑福亭鶴光とオードリーが担当し、ビートたけし、中島みゆき、松任谷由実ら、「オールナイトニッポン」の歴史を彩った22組のパーソナリティが出演しました。



「45周年 笑福亭鶴光&オードリー」

dinos (株)ディノス

好調のファッション、新たなコラボも展開

カタログ通販では、ファッション・リビングとも堅調に推移しました。単品では美健ジャンルにヒット商品が生まれ、昨年9月発売の「シェイプピート コア5000」は累計売上1万台を突破、「アセチノスリムタップ」は年間を通してベストセラーとなりました。

新たな取り組みとしては、百貨店をはじめとする外部とのコラボを積極的に展開しています。また独自のサービスとして、昨年秋に開始した「大物商品無料引取りサービス」の全国展開(沖縄・島しょ部除く)が功を奏し、家具類の売上を後押ししています。



「アセチノスリムタップ」

PONY CANYON (株)ポニーキャニオン

テレビドラマ・映画・アニメが引き続き好調!

aiko、チャン・グンソク、ジャニーズのSexy Zone、移籍のGLAYがアルバムをリリースし、それぞれオリコン1位を獲得。フジテレビのドラマ「鍵のかかった部屋」「謎解きはディナーのあとで」、映画「BRAVE HEARTS 海猿」のDVDがヒットしました。「西部警察」や、初のDVD化「黒部の太陽」など石原プロ作品や、洋画「エクスペンダブルズ2」もDVD化し好調。アニメでは「TARI TARI」「ゆるゆり」「中二病でも恋がしたい!」などがヒットしました。現在、コンサート・イベント、ファンクラブ、アプリなどへの事業拡大を進めています。



「BRAVE HEARTS 海猿」
©フジテレビジョン ROBOT ポニーキャニオン
東宝 小学館 エー・チーム FNS27社

cecile (株)セシール

卵殻膜コスメを中心としたBH事業が好調

平成24年春夏シーズンよりカタログをリニューアルした、BH(ビューティー&ヘルス)事業が好調に推移しました。

化粧品、美容器具、健康食品等を扱う同事業では、化粧水・美容液等の基礎化粧品や、健康食品の定期便など、リピート性の高い商品の強化が売上を牽引。特に、卵の殻の内側にある薄い膜「卵殻膜」を主成分とする、オリジナル化粧品ブランド「アルマードラディナー」が、順調に売上を拡大しました。他に「するっと排排美茶」「天然酵母ドリンク・コーボンコース」の2つのダイエット系商品も好評を博しました。



「ビューティー&ヘルスカatalog」

株式会社 サンケイビル (株)サンケイビル

大手町フィナンシャルシティ開業、マンション販売好調

ビル事業はフジテレビジョンなどと共同で取り組んだ「ダイバーシティ東京」が開業、都内観光スポットとして人気です。秋には連鎖型再開発事業「大手町フィナンシャルシティ」が開業し、3月には東京サンケイビル内に日本初のみぎとリテイティングパーク「全や連総本店 東京」が開店。連日多くのお客様が詰めかけ、大手町に賑わいを創出しています。

住宅事業は、分譲マンション「ルフォン横浜白楽」など9物件が完売し、来期販売物件の売れ行きも順調です。シニア事業は有料老人ホーム2施設を開設、事業分野は確実に広がっています。



「大手町フィナンシャルシティ」

その他の各社のトピックス

BSフジ (株)ビーエスフジ

看板番組「プライムニュース」1,000回突破!!

本年3月、放送1,000回を迎えた「プライムニュース」の「集い2013~提言・新しい日本を創る~」を開催し、安倍首相をはじめ各党党首クラスや政界・経済界など各界から350人が出席しました。「プライムニュース」は今や民放を代表する報道番組の主軸として、ますます注目を集めています。

扶桑社 (株)扶桑社

3期連続黒字で黒字体質に改善!

書籍「人の心を自由に操る技術 ザ・メンタリズム」(11万部)、「私服だらけの中居正広増刊号②、③」(2冊で53万部)、ムック「櫻木裕実カーヴィーボディ1週間美やせプログラム」(20万部)などのベストセラーとコスト削減が功を奏して3期連続黒字となりました。

特集 時代を超えて愛され続ける「国民的」コンテンツ フジテレビのふたつの「顔」がともに節目を迎えました

一日の始まりを彩り続けて20年
「めざましテレビ」の歴史は日本の朝の歴史です



1994年4月にスタートした「めざましテレビ」は、本年4月に20年目を迎える事ができました。時代を先取りし、他局に先がけてエンタメ情報を始めたほか、大人気コーナー「ココ調」

の開発、そして「めざましじゃんけん」や「めざましアプリ」など、常に「進化」を続けながらも「朝の定番」として国民的に愛され続け、現在4年連続視聴率首位を獲得（関東地区）し、記録を更新し続けています。

また、番組の枠を乗り越えて、夏の定番となった「めざましライブ」や、被災地支援の「TATTON」プロジェクトなど、常に日本中が明るくなるためのアクションも起こしています。20周年企画としては「LIVE ISLAND」と題し、日本中が生（=LIVE）で楽しむイベントを開催、「めざましライブ」を全国規模に拡大するほか、系列各局とも多くの連動イベントを実施します。



©紙兎ロペプロジェクト2013/
フジテレビジョン

アニメ「サザエさん」
放送開始45年目へ！



アニメ「サザエさん」は1969年10月5日に放送がスタートし、本年10月で45年目に突入します。

これまでの放送回数は2,200回を数え、世界一続いている長寿アニメ作品ですが、平均視聴率は23.0%*という高視聴率を獲得しており、フジテレビの枠組みを超え

て国民的アニメ番組として皆様から愛され続けています。

そして本年10月からはフジテレビ開局55周年＆サザエさん放送45周年プロジェクトがスタートします。これまでの永きに渡る全国の皆様への感謝の意を込めて、放送史上初めてアニメ「サザエさん」の世界を直接楽しんで頂ける特別巡回展「ありがとう45周年！みんなのサザエさん展」を実施します。

温かく、楽しく、そして平和な日本の家族の絆の素晴らしさを発信していきます。

*視聴率がデータ化された
1980年以降の平均視聴率



めざましテレビ
歴代
メインキャスター



大塚 範一



八木 亜希子



小島 奈津子



木佐 彩子



高島 彩

1994

1997

2003

夏から冬、春、そしてこれからも！
超人気イベント「お台場合衆国」を展開しています

夏と冬合わせて520万人動員達成!!

お台場合衆国 presents

キラキラ WINTER LAND



「お台場合衆国2012」は454万人という合衆国史上最多来場者数を記録し、大いに盛り上がりました。そして、もう一度皆様の笑顔が見たいという感謝の気持ちから、3年ぶりに冬のイベントを開催しました。

バラエティ番組を中心に情報、ドラマから参加番組を募った結果、参加番組は過去最多となり、さらにステージでは、音楽



ステージを彩る特大ツリー

ライブはもちろん、クリスマス、お正月を彩る様々な企画を実施。その甲斐あって23日間で65万9千人ものお客様にお越し頂きました。

会社概況

会社概要 (平成25年3月31日現在)

会社名	株式会社フジ・メディア・ホールディングス (FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.)
事業内容	認定放送持株会社
設立	昭和32(1957)年11月18日
決算期	3月31日
資本金	1,462億35万円
連結従業員数	5,917名
本社	〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号

役員 (平成25年6月28日現在)

代表取締役会長	日枝 久	取締役	松岡 功
取締役副会長	豊田 皓	取締役	三木 明博
代表取締役社長	大田 英昭	取締役	黒田 大雅
取締役副社長	嘉納 修治	取締役	石横 崎
常務取締役	和賀井 隆	取締役	寺崎 文雄
常務取締役	金光 修	取締役	清原 彦彦
取締役	亀山 千広	常勤監査役	尾上 喜喜
取締役	遠藤 龍之介	常勤監査役	瀬田 友三郎
取締役	鈴木 克明	監査役	南木 直哉
取締役	大 多 亮	監査役	奥 島 孝 康

CSR通信 Vol.13

メディア企業としての被災地支援を継続！

東北に“元気”と“笑顔”を
発信し続けます!!

みちのく合衆国 in 福島



東北の皆様にご直接感謝の気持ちを伝え、被災地に明るい光をともすことができればと考え、昨年からはまった「みちのく合衆国」。本年は3月30日(土)に福島県で開催しました。



めざましライブにサプライズ出演 鈴木雅之

フジテレビが誇る人気番組「THE MAN ZAI」の公開イベント(この模様は被災地3県に生放送)や「めざましライブ」を行い、7千人のお客様にお越し頂きました。

グループ会社と連携で被災地に笑顔をお届け!



岩手めんこいテレビのキャラクターミット君に会えて笑顔満開!

当社グループでは、フジテレビCSR推進プロジェクトチームを中心に被災地支援「ずっとおうえん。プロジェクト」を継続。震災後から約90ヵ所(合計9,000人)を訪れ、現地のニーズに合わせた楽しいイベントを企画・実行しています。3月には、ディノスの復興支援活動「東北に春をお届けします。」とフジテレビが連携。生田竜聖アナとともに岩手県陸前高田市の子育て支援施設など4ヵ所を訪問し、花の苗を届けました。

これからもメディア企業の特性を生かし、被災地を支援していきます。

株式情報 (平成25年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,364,298株
株主数	60,352名

(注)発行済株式の総数には自己株式及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)が含まれております。

大株主

株主名	持株数(株)	比率(%)
東宝株式会社	185,721	7.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	135,654	5.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	122,554	5.18
株式会社文化放送	77,920	3.30
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	77,000	3.26
関西テレビ放送株式会社	61,461	2.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	55,638	2.35
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社電通口)	46,500	1.97
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー 505223	43,089	1.82
株式会社ヤクルト本社	39,690	1.68

所有者別株式分布状況

株主数

政府及び地方公共団体	0名	(0.0%)
金融機関	93名	(0.2%)
金融商品取引業者	36名	(0.1%)
その他の法人	450名	(0.7%)
外国法人等	444名	(0.7%)
個人その他	59,329名	(98.3%)

株式数

政府及び地方公共団体	0株	(0.0%)
金融機関	585,676株	(24.8%)
金融商品取引業者	75,113株	(3.2%)
その他の法人	733,203株	(31.0%)
外国法人等	468,389株	(19.8%)
個人その他	501,917株	(21.2%)

(注1)「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が402株含まれております。

(注2)放送法で定める外国人等の有する議決権数の当社議決権総数に占める割合は19.99%です。

(注3)「個人その他」には、自己株式22,352株及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)163,897株が含まれております。

(注4)比率は小数第2位を四捨五入しております。

注1
参照

注2
参照

注3
参照

注4
参照

株主メモ

事業年度	4月1日～3月31日
配当金受領の株主確定日	3月31日及び中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会	6月下旬
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告の方法	産業経済新聞に掲載します。

外国人等の株主名簿への記載・記録の制限等

当社は、放送法で定める外国人等(①日本の国籍を有しない人、②外国政府又はその代表者、③外国の法人又は団体、④「①から③までに掲げる者」により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人又は団体)の有する議決権について、①から③までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により④に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が、議決権の20%以上となる場合には、放送法の規定により、認定放送持株会社の認定が取り消されることとなります。そのため、このような状態に至るときには、放送法の規定に基づき、外国人等からの株式の名義書換請求等による株主名簿への記載・記録を拒否し、又は、外国人等の議決権行使を制限することができるとされています。

お知らせ

●配当金計算書について

1. 配当金を配当金領収証にてお受取りの株主様へ

本年お受取りの配当金について確定申告を行う場合は、配当金領収証に同封いたしました「配当金計算書」が添付書類となります。

注)「配当金計算書」は、租税特別措置法上の「支払通知書」を兼ねた書類ですので、確定申告の際にご利用いただけます。

2. 配当金の受取方法として、口座振込を指定されている株主様へ

同様に確定申告を行う場合は、同封の「配当金計算書」が添付書類となります。

3. 配当金の受取方法として、証券会社にて「株式数比例配分方式」を利用されている株主様へ

確定申告を行う際の添付書類等につきましては、お手数ですがお取引の証券会社にお問合せください。

株式に関するお手続き

●株式に関する各種お手続き(住所変更、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いしております。詳しくは、お取引の証券会社にお問合せください(ただし、郵送物等の発送と返戻に関するご照会と株式事務に関する一般的なお問合せは、株主名簿管理人：後掲のフリーダイヤルにお問合せください)。

●株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていなかった株主様の株式につきましては、「特別口座」で管理されております。「特別口座」に関する各種お手続き(証券会社の口座への振替、住所変更、配当金受領方法の指定など)は、みずほ信託銀行株式会社本・支店及びみずほ証券株式会社本・支店・営業所にて受け付けます。

なお、「特別口座」の詳細につきましては、次のフリーダイヤルにお問合せください。

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)

●払渡し期間経過後の配当金領収証(いわゆる「未払配当金」)にかかる領収証をお持ちの株主様は、配当金領収証に押印のうえ同領収証裏面に記載の送付先にお送りいただくか、次の場所に配当金領収証をお持ちください。

●みずほ信託銀行株式会社本・支店

●株式会社みずほ銀行本・支店

●みずほ証券株式会社本・支店・営業所